

令和3年度第5回公立大学法人福知山公立大学評価委員会 議事録概要

1 日時 令和3年12月9日(木)15:30~16:30

2 場所 福知山市役所 6階 農業委員会室

3 出席者

委員	(リモート参加) 青山委員長、大久保委員 (会場参加) 菊田委員、中井委員、細見委員
福知山市	岸本課長、井上補佐、川村
公立大学法人福知山公立大学	井口理事長兼学長、川添次期理事長候補者、山本理事兼事務局長、山中GM、内田GM、神代

4 会議概要

	議題・報告事項	内容
1	【議題(1)】 公立大学法人福知山公立大学 第2期中期計画について	法人から【資料1】により説明。
2	【議題(1)】 意見交換・質疑等	(主な意見) <ul style="list-style-type: none"> ■ 大学の規模の充実化とともに受入生徒の質の良質化、優秀な教員の採用等も教育の内容と並んで重要な点である。 ■ 中期計画には、毎年度達成しなければならない項目、1、2年で達成できる項目、6年で達成できる項目などが混在しているので各々年度計画で取り組み、達成した項目は評価の対象から外すといったようなことをしていけば、PDCAがまわる。
3	【議題(2)】 公立大学法人福知山公立大学 評価委員会条例の改正について	【資料2】公立大学法人福知山公立大学評価委員会条例の改正について承認。

5 次第

(1) 開会挨拶 青山委員長

(2) 議題(1) 公立大学法人福知山公立大学第2期中期計画について

(青山委員長)

公立大学法人福知山公立大学第2期中期計画について法人から説明をお願いします。

⇒【資料1】により法人から説明。

(委員)

第2期中期計画に記載のある「他大学にはない独自の存在感を發揮できるようにしなければならない時期である。」というところについて、まさしくそのとおりであると思った。第1期中期計画の期間は4年制大学を存続させるかどうかという議論から始まり、大学の方々は暗中模索の中、努力され、実績を残されてきた。これからは、福知山公立大学が進学先として選ばれる理由となる特徴を前面に出していく時期である。中期計画期間は6年という長期間である。今は社会の動きが非常に速いので、毎年度評価をしていく中で、計画自体が時代にそぐわないものになってしまうことを懸念している。諸団体に活動する中で、イベント等に公立大学の学生に参加してもらってはどうか、というような話をよく聞くようになった。これは大学の6年の成果ではないか。市民の、大学に対する機運の醸成が少しずつ進んでいるので、これをますます進めていただいて、地域になくってはならない存在であり続けていただきたい。

(委員)

第1期中期計画を読んだときには、どのように評価したらよいか難しいところがあったが、今回の第2期中期計画は内容が整理されて良かたちになっている。この間、大学運営にあたっては公立化以前からあった地域経営学部の継承等、様々な課題がありながら非常によく努力されておられる。情報学部の開設や今後の大学院の設置など、大学が充実してきていると感じる。また、大学の規模の充実化とともに受入生徒の質の良質化、優秀な教員の採用、大学を運営するシステム等の導入も教育の内容と並んで重要な点だと思う。引き続き地域課題の解決に貢献できるような大学にしていっていただきたいと思っている。

(委員)

公立大学の影響力が内外ともに大きくなっている。「教育のまち 福知山」という表現をよく見るようになった。第2期中期計画において財務内容の改善に記載のあった「費用対効果の観点から(事業・業務の)縮小・廃止も含めて見直しを行う」というところには、第2期の成長を考え、このような厳しい表現にしていると感じた。施設設備の長寿命化、大学院の設置のため教職員を充足していかなければならないという点が第2期の大きな課題であると考えた。その点を費用対効果の観点から、いかに大学を成長させていくかということを考えておられる計画だと感じた。

(委員)

開学以来、井口学長のリーダーシップのもと、関係者が努力され、ここまで立派な大学にされたということに敬意を表す。地域外でも様々なところで福知山公立大学の名前を見たり聞いたりするようになった。このようなことに委員として誇りを感じる。第1期中期計画の策定時とは異なり、第2期は設置者と法人で丁寧に議論され、中期目標が提示されたので、それに呼応して、しっかりと目標に対応した計画になっていると評価している。特に、重要な項目に対して数値目標を記載いただいたので、評価する側からしても、評価の物差しが明確にできている計画であると評価できる。計画についてはすべての項目が同じ難易度ではなく、私なりに整理すると、数年間経てやっとな達成できるものは、例えば情報学を中軸とする大学院の設置、外部資金の獲得などが挙げられる。

毎年達成し続けなければならないものは志願者倍率、就職率などが当てはまるのではない。管理系の規程の整備などは一、二年ですぐに達成できると考えられる。このような項目が中期計画の中にも混在しているので、年度計画の中でしっかりと押さえながら、達成した項目は評価の対象から外すといったようなことをしていけば、PDCAがまわると思った。情報学を中軸とする大学院の設置を目指すことについて、大学院を設置するというにはある意味コストがかかる一方で修士号を出したり学術論文が発表されたり大学としてはステータスになる。大学院は現状2学部の文理融合を土台としたということが明記されており夢のある計画なので、うまく進めていただければと思う。最後に、この業界は、仕事が煩雑になり積みあがっていく一方なので、徐々に教職員が疲弊していているということを実感している。これからは不要なもの、効果のないものは思い切ってスクラップすることが必要。ビルドだけでは現場がもたないので、一定役割を終えたもの、効果が出なかったものは、どこかで見切りをつける。そこから、これまで以上に効果の見込まれるものを新たに始めるという観点で大学を運営していくことが重要。

(委員)

「福知山モデル」という記載がされているが、福知山がモデルになるということは簡単ではない。5、6年経過したときに、モデルができていることを楽しみにしている。ぜひ、年度計画で明らかにしていっていただきたい。DXは日進月歩でどんどん進めていかないといけないところなので、年度計画でどう記載されてくるのか楽しみにしている。第1期は公立大学が大きな活躍をされてこられた。新型コロナウイルス感染症の影響がなければ、もっと活躍ができていたのではないかと考えている。これから新型コロナウイルスが終息していくと期待される中であって、「福知山モデル」を目指した新しい大学をつくりあげていくことになる。特に、地域経営学と情報学の文理融合で授業を行うことで、様々なアイデアが生まれる。それぞれの得意分野で作業を分担して行える。そういったことが「福知山モデル」に貢献できると考えている。

(法人)

この6年間で、大学らしい大学にすること、例えば定員を充足させること、学生に学力をつけることなどはできたのではないかと感じている。しかし、課題はまだ山積していて、とりわけ4年の任期後の2年間はコロナ禍の問題があり、学内で新しい取組が必要となり今もまだ五里霧中である。新しく学長に川添先生をお迎えすることになり、川添先生のリードでこの中期計画を策定することができた。第2期に大いに期待している。

(法人)

「福知山モデル」をどうするのか、ということは6年後を見てくださいますとしか言いようがない。このような空洞のような概念を掲げることで、大学内部の求心力、外部への訴求力になる。大学としてクリエイトすることが非常に大事な要素となる6年間であると考えている。内部からは見えない課題がたくさんあると考えられるので、評価委員会からは忌憚のないご意見をいただきたい。

(委員)

福知山公立大学は地域の中で絶対的な存在感を作り出してきたのではないかと考えている。福知山公立大学は、府内だけでなく、北近畿の中で非常に大きな存在感を発揮するようになった。井口学長の多大なる尽力に敬意を表したい。川添先生には新しい指導力で新しい福知山公立大学、特に「福知山モデル」を構築していただきたい。大学と評価委員会でお互い議論をしながら進めていきたい。

(青山委員長)

第2期中期計画についての意見書について意見はあるか。

(委員)

数値目標を設定することによって、お互いに達成水準を共有できるようになることは当然であるが、法人に、すべての項目について数値目標を策定しなければならない、というように受け取られるのではないか。定性的にしか評価できない項目もあるので、数値目標を策定することが適切な項目については、策定いただくという趣旨が伝わる文言に修正した方がよいのではないか。

(青山委員長)

「客観的に評価ができる成果指標や…」を「客観的に評価できる項目については成果指標や…」と修正してはどうか。

(委員)

異議なし。

(青山委員長)

法人に対する意見書は同様に修正したものでよいか。

(委員)

異議なし。

(3) 議題(2) 公立大学法人福知山公立大学評価委員会条例の改正について

(青山委員長)

公立大学法人福知山公立大学評価委員会条例の改正について事務局から説明をお願いする。

⇒【資料2】により事務局から説明。

(青山委員長)

なにか意見があるか。

(委員)

異議なし。

(4) 閉会